大学申請書

様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	福島学院大学
設置者名	学校法人　福島学院

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
福祉学部	福祉心理学科	夜・通信			16	17	13	
	こども学科	夜・通信			16	16	13	
マネジメント学部	地域マネジメント学科	夜・通信			6	18	13	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_study/

上記ホームページで公表のシラバス内に実務経験の有無を記載
また、実務経験のある教員による授業科目の単位数については添付資料のとおり

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	福島学院大学
設置者名	学校法人　福島学院

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.fukushima-college.ac.jp/corporation_info/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	他大学教授	2025.5.31 ～ 2029.6 月定時評議員会終結の時	教育・地域連携
非常勤	他大学非常勤講師・職員	2025.5.31 ～ 2029.6 月定時評議員会終結の時	教育･入試制度担当
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福島学院大学
設置者名	学校法人　福島学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 各授業科目に関して、授業方法・内容、到達目標、成績評価の方法・基準等を明記した授業計画書（シラバス）を作成・公表しており、これを通じて教育の透明性を確保し、学生の主体的な学修を支援している。 シラバスの作成にあたっては、毎年１月初旬に全教員へ対して「シラバス記入要領」および「シラバス作成マニュアル」を配付し、Web 入力方式にて作成を依頼している。これにより、履修登録システムとの連携を図るとともに、内容の標準化と記載の質の向上を目指している。 シラバスの内容について卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、他授業との関連性について点検を行うなど、授業の工程表として機能するように作成することとしている。 また、授業の到達目標、成績評価の在り方、総合力の修得に加えて、コミュニケーション力・実践力等の能力、主体的に学習に取り組む態度の育成、また、担当授業科目が能力育成のどの部分を担うかを示し、学修成果の可視化に向けた取り組みの一環としている。 実務経験のある教員の担当科目については、担当する授業科目に関連し、その実務経験を十分に授業に活かしながら、実践的教育を行うこととし、シラバスに掲載している。 学生に対しては、4 月初旬に実施される学科別オリエンテーションにおいて、シラバスの確認方法や履修登録手続き等をマニュアルに基づき説明しており、学生は Web 上でシラバスを参照しながら履修登録を行っている。 【スケジュール】 ・１月初旬：教員へ「シラバス記入要領」等を配布し、作成依頼 ・１月下旬～２月：教員による web 入力作業 ・３月下旬：web 履修登録に向けて、シラバス内容の確認・公表 ・４月初旬：学科別オリエンテーションで学生への説明、履修登録実施

授業計画書の公表方法	『シラバス記入要領』 各教員に配布（別添） 『授業計画（シラバス）』 福祉学部　福祉心理学科・こども学科 マネジメント学部　地域マネジメント学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_study/

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

学則および履修規程に基づき、すべての授業科目において、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。

また、シラバス記入要領により、成績評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、学生が授業の到達目標に対する達成度及び修得した基礎知識・技能等をどの程度達成したかを、多面的・総合的に判断して行い、客観的および厳格性を確保するため、ペーパーテストのみで評価することのないよう、評価の配分割合も記載することとしている。

学生に対しては初回授業の際に具体的に説明を行い、成績評価にあたっては、より公正な成績評価となるよう補足的事項（シラバス記入要領 P8～P11）を定めている。

また、教員授業実施規程を定め、授業の実施にあたり留意すべき事項、本学の教育理念の実現等、魅力ある授業の実施について規定し、これを遵守することとしている。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

本学の成績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格、59 点以下を不合格としており、学生が単位を取得するためには、履修した科目について 60 点以上の評価を受けなければならない。

GPA の算出方法は、各授業科目５段階の成績評価点に対する評価記号および GP を付与し以下の通り算出する。

なお検定試験等により、単位認定を受けた科目は対象外となる。

成績評価と GP の対応

A＋（100～90 点）：GP4.0
A（89～80 点）　：GP3.0
B（79～70 点）　：GP2.0
C（69～60 点）　：GP1.0
D（59 点以下）　：GP0.0

学期 GPA 算出方法

$$\frac{\text{当該学期の A+ の単位数}\times 4.0+\text{ A の単位数}\times 3.0+\text{ B の単位数}\times 2.0+\text{ C の単位数}\times 1.0}{\text{当該学期の履修登録科目単位数の合計}}$$

累積 GPA 算出方法

$$\frac{\text{在学期間中の A+ の単位数}\times 4.0+\text{ A の単位数}\times 3.0+\text{ B の単位数}\times 2.0+\text{ C の単位数}\times 1.0}{\text{在学期間中の履修登録科目単位数の合計}}$$

各科目においては、多面的・総合的に判断し、評価基準は測定可能なものとし、学生から評価の根拠を照会された場合、その根拠を明確に説明できるようにしている。

なお、卒業認定・学位授与要件の一つとして、累積 GPA1.0 以上が盛り込まれている。

成績通知書には当該学期の学期 GPA・累計 GPA を記載し、各学期末に学生と父母等に通知している。また各学期末に算出した GPA の一覧を各学科へ報告し、各学科においては、それを基に学生への個別支援や履修指導等を行っている。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	『GPA の算定について』 https://www.fukushima-college.ac.jp/gpa/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学公式ウェブサイト等を通じて公表している。規定する個々の評価を本学が定める GPA 基準により総合的な学修経験を通して修学し、学士の学位を授与するにふさわしい人格と識見と健全な精神を有していると学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「学士」の学位を授与することとしている。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	『福島学院大学　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）』 福祉学部福祉心理学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_psy_learning/ 福祉学部こども学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/ マネジメント学部地域マネジメント学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/mgt_manegement_learning/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	福島学院大学
設置者名	学校法人　福島学院

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
財産目録	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
事業報告書	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
監事による監査報告（書）	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_evaluation/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　福祉学部　福祉心理学科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/　）

（概要）
福祉心理学科においては、社会福祉、精神保健福祉、臨床心理、カウンセリング等の分野において将来の専門職として必要な教育を行うとともに、他者の心の痛みに共感でき、心の痛みを抱える人々に積極的な援助活動を行うことができる人材を育成することとしている。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、
https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_psy_learning/）

（概要）
福祉心理学科の教育研究上の目的に基づき、福祉心理学科教育課程における学修を通して以下に示す能力・技能等を身につけ、福島学院大学学則に定める卒業に必要な要件を満たした者に対して卒業を認定し、「学士（福祉心理学）」の学位を授与する。

ＤＰ１．総合力：人間や文化について幅広い知識を身につけ、広い視野から理解することができる思考力・判断力
ＤＰ２．問題発見・解決力：現代社会に関心を持ち、課題を見つけ出して解決に取り組むことができる関心・意欲・態度
ＤＰ３．構想・構築力：新たな問題を言語化またはモデル化し、それに対する分析や提案をおこない、論理的に説明する力
ＤＰ４．コミュニケーション力：学びによる能力や素養を活かすために、他者との相互理解を実現する力
ＤＰ５．実践力：対人援助職としての専門性を実践するために必要な知識・能力・技能

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、
https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_psy_learning/）

（概要）
福祉心理学科は、社会福祉、精神保健福祉、臨床心理、カウンセリング等の分野において、卒業認定・学位授与に求められる能力や素養を身につけるために、体系的教育編成を構築している。

卒業認定・学位授与に求められる体系的教育編成
・すべての学生が根拠に基づく（エビデンスベース）思考力と総合力を身につけるために、充実した教養教育の編成。
・演習・ゼミナールや学生参加型対話型教育（アクティブラーニング）などの双方向型授業を主体とし、フィールドワークも活用したプロジェクト型の教育を通して、問題発見・解決力、構想・構築力・コミュニケーション力、実践力を培う専門教育の編成。
・教養教育と専門教育における学生の主体的学びを構築するために、学問分野・レベ

ル・授業形態などをカリキュラムマップ・カリキュラムツリー・ナンバリングなどによって体系化。
・学生の自学自修による体系的な学びを、学修ポートフォリオなどによって可視化（みえる化）。

２つに大別される科目およびプログラム
カリキュラムは、教養教育科目・専門教育科目に大別され、そこに関連する分野の科目によって、卒業認定・学位授与のための体系的学習が可能です。
１．教養教育科目
・広い視野に立ち、学士力の基礎となる基本的な教養（アカデミック・ツール）を提供する。
・１～２年次の初年次教育によって、リテラシー（読む・書く・話す）および情報リテラシーを修得する。

２．専門教育科目
・１～４年次までの専門教育科目によって、研究能力、専門的職業能力を育成するとともに資格取得のために高い知識・技能の修得を提供する。
・学外実習や地域ボランティア活動を通して、地域と社会で実践的に学び、また貢献する機会を提供する。

成績評価の可視化（みえる化）
・教育課程レベルや科目レベルでの「学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）」を踏まえて行う。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、
https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_psy_learning/）

（概要）
建学の精神「真心こそすべてのすべて」に則り、Sincerity（真心＝偽りや飾りのない心）と Hospitality（思いやり）の体得に努め、探求心を持って地域・社会に積極的かつ実践的に貢献しようとする意思と意欲を持ち、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を備えた将来、対人援助職を目指す人を募集する。

入学前に身につける能力・素養
１．知識・技能
高等学校までの履修内容について、科目の偏りがなく総合的に身につけている。
２．思考力・判断力・表現力などの能力
（１）現代社会に関心をもち、物事を筋道立てて考えることができる。
（２）課題やテーマについて調べ、分かったことや気づいたことを他者に伝えることができる。
３．主体性を持って多様な人びとと協働して学ぶ態度
（１）自分の目標を持って意欲的に学ぶことができる。
（２）他者を尊重することができる。
（３）他者と協力して課題に取り組むことができる。

入学選抜の方針
・入学選抜では、福祉心理学科で学びたいという高い勉学意欲と知的好奇心のある者

を、あらゆる地域から迎え入れる。
・入学後の学修の基礎となる知識・技能、論理的思考力、判断力・表現力、および主体性・協働性（学力の三要素）を入学者選抜において確認する。

評価方法

「入学前に身につける能力・素養」を、福祉心理学科の入学者選抜において評価する。

学部等名　福祉学部　こども学科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/）

（概要）
こども学科においては、教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う専門職を目指し、乳幼児期を中心とした保育および幼児教育に関する教育研究を行い、将来的に保育教諭、幼稚園教諭ならびに保育士として指導的役割を担うことのできる人材を育成することとしている。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、
https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/　）

（概要）
本学の教育研究上の目的に基づき、こども学科における学修を通して以下に示す能力・技能等を身につけ、学則に定める卒業に必要な条件を満たした者に対して卒業を認定し、「学士（こども学）」の学位を授与する。

DP1　総合力：
人間や文化について幅広い知識を身につけ、広い視野から理解することができる思考力・判断力・実行力

DP2　問題発見・解決力:
現代社会に関心を持ち、課題を見つけ出して解決に取り組むことができる関心・意欲・態度

DP3　構想・構築力：
新たな問題を言語化またはモデル化し、それに対する分析や提案を行い、論理的に説明する力

DP4　コミュニケーション力：
学びによる能力や素養を活かすために、他者との相互理解を協働により実現する力

DP5　実践力：
保育・教育の専門性を実践するために必要な知識・能力・技能

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、
https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/　）

（概要）
こども学科は、卒業認定・学位授与に求められる能力や素養を身につけるために、次に掲げる体系的教育編成を構築している。

１．総合力
保育士ならびに幼稚園教諭になるために必要な専門的知識、技能・技術を座学と演習、及び実習により学ぶ。乳幼児の保育・教育ならびに子育て支援、子どもや子育て

家庭を取り巻く福祉問題など幅広い視野から理解できる思考力・判断力を身につける。

２．問題発見・解決力

子どもを取り巻く環境の変化に関心を持ち、子どもに関する身近な問題を見つけ、その解決方法を検討する。

３．構想・構築力

ゼミナール、卒業論文・卒業制作を通じ、学士（こども学）に相応しい論理的思考により、子どもと子どもの環境についての学びの集大成を形にする。

４．コミュニケーション力

子どもの最善の利益を獲得するための、保護者との協働による保育実践は、密なコミュニケーションから生まれる。大学全体の教職員との挨拶から始まる日々のコミュニケーションを大切にすることで、コミュニケーション能力を培う。

５．実践力

1 年次から 2 年次までの座学と演習をもとに、3 年次からの学外実習において保育・教育の実践を行う。その実践の省察からの学びを次への課題として新たな実践を行うことで実践力を身につける。

〇成績評価の可視化（みえる化）

成績評価は、教育課程レベル・科目レベルでの「学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）」を踏まえておこなう。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、
https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/　）

（概要）

建学の精神「真心こそすべてのすべて」に則り、Sincerity（真心＝偽りや飾りのない心）と Hospitality（思いやり）の体得に努め、探究心をもって地域・社会に積極的かつ実践的に貢献しようとする意思と意欲を持ち、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を備えた将来保育者を目指す人を募集する。

１．知識および技能

(1) 専門科目を学ぶために必要な「音楽」、「家庭」の基礎的な内容を理解していること。

(2) 読解力や語学力の基礎となる「国語」を通して、聞く、話す、読む、書くという基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。また、実務的な計算能力があること。

２．思考力・判断力・表現力等

子どもや子どもの環境に関する問題について、知識や情報を基に論理的に考察し、判断したり、行動したりすることができること。

３．主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

子どもや子どもの環境に対する強い興味と関心を持ち、将来、保育者として子どもの福祉に貢献したいという意欲がある。学修課題に積極的に取り組み、主体的に学ぶことができること。

以上のような入学者を選抜するために、本学科で学びたいという高い勉学意欲と知的好奇心のある人を、あらゆる地域から迎え入れ、筆記試験（小論文を含む）、面接、書類審査等を取り入れた多様な入試を実施する。

学部等名　マネジメント学部　地域マネジメント学科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/）

（概要）
マネジメント学部地域マネジメント学科は、「ふくしまならではの学び」によって将来に向けて挑み続ける社会を実現することを教育理念に掲げ、この理念のもと持続可能な地域の創生と活性化に貢献する人材を養成することとしている。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、
https://www.fukushima-college.ac.jp/mgt_manegement_learning/　）

（概要）
マネジメント学部は「ふくしまならではの学び」として、福島の復興をモデルに、地域固有の諸課題を改めて見いだし課題解決の道筋を考え、地方創生の足がかりを構築していくプロセスをマネジメントすることによって持続可能な地域の創生と活性化を目指すものであり、本学のＤＰ（ディプロマ・ポリシー：学位授与方針）を踏まえ、本学部が目指す人材養成の観点から、学生がどのような能力を修得し、その能力をどのように生かして社会で貢献する人材を養成することを目指しているのかを具体的に明らかにするため、本学部での学びによる学修到達目標としてマネジメント学部のＤＰを次のように定め、学則に定める卒業に必要な要件を満たした者に対して卒業を認定し、「学士(マネジメント)」の学位を授与する。

①大学の学位授与方針

DP1．総合力
人間や文化について幅広い知識を身につけ、広い視野から理解することができる思考力・判断力

DP2．問題発見・解決力
現代社会に関心を持ち、課題を見つけ出して解決に取り組むことができる関心・意欲・態度

DP3．構想・構築力
新たな問題を言語化またはモデル化し、それに対する分析や提案を行い、論理的に説明する力

DP4．コミュニケーション力
学びによる能力や素養を活かすために、他者との相互理解を実現する力

DP5．実践力
専門性を実践するために必要な知識・能力・技能

②学生が修得するマネジメントの力とマネジメント学部のディプロマ・ポリシー

DP1．思考力・判断力
1）人間や文化について幅広い知見を身につけることによって、マネジメントに必要な広い視野から柔軟に考え判断することができる。
2）幅広い知見に基づいて、時代と地域の課題を的確に捉え判断するための基礎的能力を有している。

DP2．情報収集・分析力
1）新たな社会を見据えて広く現代社会に関心を持つとともに、マネジメントに必要な適切な情報収集力と客観的な分析力を修得している。
2）ICT（Information and Communication Technology）を理解し、マネジメントに応用できる技術と能力とを修得している。

DP3．構想・構築力
1）マネジメントに必要な専門基礎力をもとに、地域の課題を発見しその解決の方向性を

想定する発見力と構想力を有している。
2) マネジメントの専門的知見から、地域経営や地域政策に関する構想を具体的な提案として構築する力を有している。

DP4. 表現力・コミュニケーション力

1) 課題に対応した活動の価値を言語やモデルを通して伝え、マネジメントのための情報として表現し発信することができる。
2) 課題に対応するための企画を動かすリーダーシップによって他者との相互理解をはかり、マネジメントに必要なコミュニケーション力を有している。

DP5. 実践力・総合力

1) さまざまな課題の解決に取り組むために、人と物の資源を組織化するマネジメントの実践力を身につけている。
2) 状況を客観的に評価・修正し、組織に成果をもたらすために考え行動する総合的なマネジメントの実践技術と能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/ 、
https://www.fukushima-college.ac.jp/mgt_manegement_learning/ ）

（概要）
マネジメント学部の教育課程編成は、本学が掲げる建学の精神及び教育目標と人材像、ＤＰに則り、マネジメント学部の目的及びＤＰとの整合性を図るとともに、学士力の獲得と、「ふくしまならではの学び」を達成するためのＣＰ（カリキュラム・ポリシー）を設定している。

①CP1. 思考力・判断力を高める

1) 自然・人文・社会・言語分野の「教養教育科目」による幅広い知識の融合を通して、マネジメントに必要な広い視野や人間の本質などに関する深い洞察力と柔軟な思考力を涵養する。
2) 本学独自の学びの導入として「ふくしまに学ぶ(基礎)」により、地域貢献への意識を再認識し、実践的な学びの入口に立つとともに、「基礎ゼミナール」を通して大学での学びに必要な基礎力を高める。

②CP2. 情報収集・分析力をつける

1) 新たな時代を見据えて現代社会を理解するために、「教養教育科目」を通してマネジメントに必要なさまざまな情報収集力と分析力を獲得する。
2) マネジメントの基礎を獲得するためのアカデミックリテラシーとして ICT に関するリテラシー科目を必修とするとともに、マネジメントに必要な経済統計やデータ分析などの科目を置く。

③CP3. 構想・構築力を育む

1) マネジメントに関わる理論分野の学問体系を包括的に学修する入門科目として、「専門基礎科目Ⅰ、Ⅱ」を設け、経営学、経済学、政策学等の基礎科目を学び、「専門ゼミナール」によって課題解決の方向性を発見させる。
2) 地域課題のマネジメントを専門的に学ぶために、地域の金融、企業経営、流通、交通経済等を学ぶ「地域経営」と防災・危機管理政策、公共政策、メディア、地域コミュニティ等を学ぶ「地域政策」の 2 領域を設定し、学生が目指す将来キャリアに応じて段階的に各論・応用科目を選択できるよう構成することで、地域課題に対する具体的な提案をできるようにする。

④CP4. 表現力・コミュニケーション力を身につける

1) 現地での演習（「被災地フィールドワーク」「企業・行政・エクスターンシップ」「地域連携演習Ⅰ」「地域連携演習Ⅱ」「専門ゼミナールⅠ～Ⅲ」）によって、マネジメントをことばで説明する表現力・コミュニケーション力を培う。
2) 学生参画対話型教育（アクティブラーニング）を通して、マネジメントに必要なリーダーシップや相互に理解する力を培い、コミュニケーション力へとつながる基本的な語

学力を養成するために、マネジメントに関する実践的な語学科目を置く。

⑤CP5. 実践力・総合力を培う

1)「ふくしまに学ぶ（応用）」によって体験的学修を取り込みながら、実社会における諸活動に結びつけ、「専門ゼミナール」を通して、的確な判断の基に課題解決の道筋を提案する実践力、総合力を培う。

2）学びの成果を集約し、達成度を総合的に測る指標となる「卒業論文・卒業研究指導」を置く。

⑥CP6. 厳格な成績評価を行う

学修成果は、各授業科目のシラバスに示した授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）にしたがい、中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等（以下「試験等」という）によって、到達目標と達成度に応じた厳格な成績評価を行う。

各科目は、ＤＰとの対応関係を示す「カリキュラムマップ」と教育課程内における当該授業科目の関連性を表す「カリキュラムツリー」等により整理し、教育の質の向上に活かしており、大学ホームページを通じて公表している他、新入生に配布する「地域マネジメント学科の教育」を通じてオリエンテーション時や履修登録時において周知している。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、
https://www.fukushima-college.ac.jp/mgt_manegement_learning/　）

（概要）

地域マネジメント学科は、幅広い知識と専門性を備え、柔軟な発想と行動力をもって、持続可能な地域の創生と活性化に貢献する人材を養成する（ＤＰ）ため、本学における学びとして構築された教育課程と教授方法（ＣＰ）を受け止め、自ら進んで学ぶことのできる人材であるかについて、教科・科目の筆記試験を中心とする基礎学力に関する試験や、面接等を採り入れた各種選抜試験によって、文部科学省が示す学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を評価することを基本方針とし、その際の選抜方法として以下の観点を定めている（ＡＰ：ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）。

1. 高校教育を広く学修し、マネジメントを学ぶために必要な思考力や判断力を一定程度有している。
2. ICT（Information and Communication Technology）やマネジメントに興味をもち、マネジメントに関する情報やその情報について考えることに関心を持っている。
3. 高校教育をとおして、課題を探求しその課題について道筋を立てて構想・構築することに一定程度関心がある。
4. 高校教育をとおして基本的なコミュニメーション能力を身につけ、人的ネットワークへの理解があり、人と協働する姿勢を一定程度有している。
5. 行動力と実行力を一定程度有している。

マネジメント学部地域マネジメント学科の入学選抜では、上記ＡＰに沿って、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、指定校推薦型選抜により入学者選抜を行っており、学力試験を通して本学で学ぶために必要な学力を計り、面接を行うことで総合的に確認している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/research_organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	2 人	―					2 人
福祉学部	―	14 人	4 人	9 人	0 人	0 人	27 人
マネジメント学部	―	8 人	2 人	3 人	1 人	0 人	14 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
1 人	0 人	1 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/teacher_profile/

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
福祉学部	110 人	79 人	71.8%	440 人	379 人	86.1%	人	人
マネジメント学部	90 人	45 人	50.0%	270 人	129 人	47.8%	人	人
合計	200 人	124 人	62.0%	710 人	508 人	71.5%	人	人

（備考）
※令和５年度マネジメント学部を設置

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
福祉学部	102 人 (100%)	7 人 (6.9%)	89 人 (87.2%)	6 人 (5.9%)
合計	102 人 (100%)	7 人 (6.9%)	89 人 (87.2%)	6 人 (5.9%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他

	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
合計	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業科目は、各学科において教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき体系的に編成している。

シラバスの内容について卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、他授業との関連性について点検を行うなど、授業の工程表として機能するように作成している。

各シラバスには、授業回（通常 15 回）ごとの具体的な授業内容や課題、使用教材、成績評価方法などを記載し、web 履修登録に先立ち学生に公開している。また、履修登録前には、学科別オリエンテーションにてシラバスの活用方法を説明し、学生が主体的に学修計画を組み立てられるよう支援している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学則および履修規程に基づき、すべての授業科目において、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。

また、シラバス記入要領により成績評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、学生が授業の到達目標に対する達成度及び修得した基礎知識・技能等をどの程度達成したかを、多面的・総合的に判断して行い、客観的および厳格性を確保するため、ペーパーテストのみで評価することのないよう、評価の配分割合も明記することを求めている。

また、学生に対しては初回授業において、成績評価の方法や基準について具体的に説明を行うことを義務付けており、より公正な成績評価の実現に向けて、補足的事項（シラバス記入要領 P8～P11）も設けている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学が定める GPA 基準により総合的な学修経験を通して、学士の学位を授与するにふさわしい人格と識見と健全な精神を有していると学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「学士」の学位を授与する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
福祉学部	福祉心理学科	124 単位	有・無	単位
	こども学科	124 単位	有・無	単位
マネジメント学部	地域マネジメント学科	124 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/campus_index/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
福祉学部	福祉心理学科	800,000 円	150,000 円	295,000 円	教育充実費 280,000 円、家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を実費徴収
	こども学科	800,000 円	150,000 円	295,000 円	教育充実費 280,000 円、家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を実費徴収
マネジメント学部	地域マネジメント学科	800,000 円	150,000 円	295,000 円	教育充実費 280,000 円、家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を実費徴収

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
遠方からの入学者のためにアパート情報の提供や、アルバイト・ボランティアの情報を提供している。また、日本学生支援機構や社会福祉協議会等の各種奨学金について説明会や個別相談を行う等、学生の手続きが円滑に進むよう支援している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
学生支援・キャリア支援課と学科キャリア担当教員が連携し、学生の進路相談を個別にきめ細かく実施し学生満足度の高い進路決定の支援をしている。就職については、卒業年次前の全学生を対象に、適性検査・就職模擬試験を無料で実施している。また、ガイダンスやセミナーで、業界・職業研究等のキャリア教育を実施するだけでなく、応募書類の書き方説明や面接指導など、就職活動の支援を行っている。福島新卒応援ハローワーク、社会福祉協議会、私立幼稚園・認定こども園連合会、市役所等と連携を取り、求人情報や説明会・面接会の情報を随時提供している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
年１回の定期健康診断だけでなく、全学生から健康調査票を収集し健康状態の把握に務めている。医務室は時期に応じた健康に関する注意喚起を定期的に実施、また学科教員との連絡を密にし、体調不良の学生へのアフターフォローを徹底している。定期的に学生健康相談委員会、障がい学生支援委員会を開催し、情報共有や課題について話し合いを行っている。また、臨床心理士・公認心理師資格を持つ学生カウンセラーを配置し、学生からの個別相談を受付け、学生の心の支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_index/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F107310101340
学校名（○○大学 等）	福島学院大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人福島学院

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		83人（―）人	82人（―）人	85人（―）人
内訳	第Ⅰ区分	41人	44人	
	（うち多子世帯）	（　　）	（　　）	
	第Ⅱ区分	24人	23人	
	（うち多子世帯）	（　　）	（　　）	
	第Ⅲ区分	16人	14人	
	（うち多子世帯）	（　　）	（　　）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	―	―	
	区分外（多子世帯）			
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				85人(―）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	—	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	—	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	0人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	—	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

短期大学部申請書

様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	福島学院大学短期大学部
設置者名	学校法人　福島学院

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
短期大学部	保育学科	夜・通信			15	15	7	
	食物栄養学科	夜・通信			14	14	7	

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_study/

上記ホームページで公表のシラバス内に実務経験の有無を記載
また、実務経験のある教員による授業科目の単位数については添付資料のとおり

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	福島学院大学短期大学部
設置者名	学校法人　福島学院

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.fukushima-college.ac.jp/corporation_info/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	他大学教授	2025.5.31 ～ 2029.6 月定時評議員会終結の時	教育・地域連携
非常勤	他大学非常勤講師・職員	2025.5.31 ～ 2029.6 月定時評議員会終結の時	教育･入試制度担当
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福島学院大学短期大学部
設置者名	学校法人　福島学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 各授業科目に関して、授業方法・内容、到達目標、成績評価の方法・基準等を明記した授業計画書（シラバス）を作成・公表しており、これを通じて教育の透明性を確保し、学生の主体的な学修を支援している。 シラバスの作成にあたっては、毎年１月初旬に全教員へ対して「シラバス記入要領」および「シラバス作成マニュアル」を配付し、Web 入力方式にて作成を依頼している。これにより、履修登録システムとの連携を図るとともに、内容の標準化と記載の質の向上を目指している。 シラバスの内容について卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、他授業との関連性について点検を行うなど、授業の工程表として機能するように作成することとしている。 また、授業の到達目標、成績評価の在り方、総合力の修得に加えて、コミュニケーション力・実践力等の能力、主体的に学習に取り組む態度の育成、また、担当授業科目が能力育成のどの部分を担うかを示し、学修成果の可視化に向けた取り組みの一環としている。 実務経験のある教員の担当科目については、担当する授業科目に関連し、その実務経験を十分に授業に活かしながら、実践的教育を行うこととし、シラバスに掲載している。 学生に対しては、4 月初旬に実施される学科別オリエンテーションにおいて、シラバスの確認方法や履修登録手続き等をマニュアルに基づき説明しており、学生は Web 上でシラバスを参照しながら履修登録を行っている。 【スケジュール】 ・１月初旬：教員へ「シラバス記入要領」等を配布し、作成依頼 ・１月下旬～２月：教員による web 入力作業 ・３月下旬：web 履修登録に向けて、シラバス内容の確認・公表 ・４月初旬：学科別オリエンテーションで学生への説明、履修登録実施

授業計画書の公表方法	『シラバス記入要領』 各教員に配布（別添） 『授業計画（シラバス）』保育学科・食物栄養学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_study/

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

学則および履修規程に基づき、すべての授業科目において、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。

またシラバス記入要領により、成績評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、学生が授業の到達目標に対する達成度及び修得した基礎知識・技能等をどの程度達成したかを、多面的・総合的に判断して行い、客観的および厳格性を確保するため、ペーパーテストのみで評価することのないよう、評価の配分割合も記載することとしている。

学生に対しては初回授業の際に具体的に説明を行い、成績評価にあたっては、より公正な成績評価となるよう補足的事項（シラバス記入要領 P8～P11）を定めている。

また、教員授業実施規程を定め、授業の実施にあたり留意すべき事項、本学の教育理念の実現等、魅力ある授業の実施について規定し、これを遵守することとしている。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

本学の成績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格、59 点以下を不合格としており、学生が単位を取得するためには、履修した科目について 60 点以上の評価を受けなければならない。

GPA の算出方法は、各授業科目５段階の成績評価点に対する評価記号および GP を付与し以下の通り算出する。

なお検定試験等により、単位認定を受けた科目は対象外となる。

成績評価と GP の対応

A＋（100～90 点）：GP4.0
A（89～80 点）　：GP3.0
B（79～70 点）　：GP2.0
C（69～60 点）　：GP1.0
D（59 点以下）　：GP0.0

学期 GPA 算出方法

$$\frac{\text{当該学期の A+ の単位数}\times\ 4.0+\ \text{A の単位数}\times\ 3.0+\ \text{B の単位数}\times\ 2.0+\ \text{C の単位数}\times\ 1.0}{\text{当該学期の履修登録科目単位数の合計}}$$

累積 GPA 算出方法

$$\frac{\text{在学期間中の A+ の単位数}\times\ 4.0+\ \text{A の単位数}\times\ 3.0+\ \text{B の単位数}\times\ 2.0+\ \text{C の単位数}\times\ 1.0}{\text{在学期間中の履修登録科目単位数の合計}}$$

各科目においては、多面的・総合的に判断し、評価基準は測定可能なものとし、学生から評価の根拠を照会された場合、その根拠を明確に説明できるようにしている。

なお、卒業認定・学位授与要件の一つとして、累積 GPA1.0 以上が盛り込まれている。

成績通知書には当該学期の学期 GPA・累計 GPA を記載し、各学期末に学生と父母等に通知している。また各学期末に算出した GPA の一覧を各学科へ報告し、各学科においては、それを基に学生への個別支援や履修指導等を行っている。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	『GPA の算定について』 https://www.fukushima-college.ac.jp/gpa/
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学公式ウェブサイト等を通じて公表している。規定する個々の評価を本学が定める GPA 基準により総合的な学修経験を通して修学し、短期大学士の学位を授与するにふさわしい人格と識見と健全な精神を有していると学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「短期大学士」の学位を授与する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	『福島学院大学短期大学部　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）』 保育学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/ 食物栄養学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_syoku_learning/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	福島学院大学短期大学部
設置者名	学校法人　福島学院

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
財産目録	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
事業報告書	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
監事による監査報告（書）	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_evaluation/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　保育学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/）
（概要） 保育学科においては、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成することを教育目標としている。学生には幼稚園教諭二種免許状と保育士資格両方の取得を奨励し、将来の保育者として、生涯にわたって学び続けながら地域・ 社会に積極的かつ実践的に貢献できる人材を輩出する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/）
（概要） 保育学科の教育研究上の目的に基づき、保育学科教育課程における学修を通して総合力、問題発見・解決力、構想・構築力、コミュニケーション力、実践力等を身につけ、短期大学部学則に定める卒業に必要な要件を満たした者に対して卒業を認定し、「短期大学士（保育学）」の学位を授与することとしている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/）
（概要） 保育学科は、保育・幼児教育分野の専門性において、卒業認定・学位授与に求められる能力や素養を身につけるために、体系的教育編成を構築しています。なお、「教員免許課程」および「指定保育士養成」に基づく教育課程を履修し、単位を修得した者に幼稚園教諭二種免許状、保育士資格が取得できるよう教育課程を編成している。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/）
（概要） 保育学科では、建学の精神「真心こそすべてのすべて」に則り、Sincerity（真心＝偽りや飾りのない心）と Hospitality（思いやり）の体得に努め、将来の保育者として、探究心を持って子どもの心身の成長を支援し、地域・社会に積極的かつ実践的に貢献しようとする意思と意欲を持つ学生を募集している。

学部等名　食物栄養学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/）
（概要） 食物栄養学科においては、実学を重視して、豊かな教養と、よりよい食生活を実現するための理論と実践力を身につけた人材を育成することを教育目標としている。将来、栄養士として、生涯にわたって学び続けながら地域・ 社会に積極的かつ実践的に貢献できる人材を輩出する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_syoku_learning/）
（概要） 食物栄養学科の教育研究上の目的に基づき、各本学科における学修を通して、必要な能力・技術等を身につけ、学則に定める卒業に必要な条件として「総合力」、「問題発見・解決力」、「構想・構築力」、「コミュニケーション力」、「実践力」を身につけたものに対して卒業を認定し、「短期大学士（食物栄養学）」の学位を授与することとしている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_syoku_learning/）
（概要） 食物栄養学科は各学問分野の専門性において、卒業認定・学位授与に求められる能力や素養を身につけるために、体系的教育編成を構築している。なお、「栄養士養成課程」に基づく教育課程を履修し、単位を修得した者に栄養士免許状が取得できるよう教育課程を編成している。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/　、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_syoku_learning/）
（概要） 食物栄養学科では、建学の精神「真心こそすべてのすべて」に則り、Sincerity（真心＝偽りや飾りのない心）と Hospitality（思いやり）の体得に努め、探求心を持って地域・社会に積極的かつ実践的に貢献しようとする意思と意欲を持つ学生を募集している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/research_organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
保育学科	－	4 人	2 人	6 人	0 人	0 人	12 人
食物栄養学科	－	3 人	1 人	2 人	0 人	0 人	6 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
2 人	0 人	2 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/teacher_profile/

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
保育学科	100 人	51 人	51.0%	200 人	122 人	61.0%	人	人
食物栄養学科	50 人	23 人	46.0%	100 人	46 人	46.0%	人	人
合計	150 人	74 人	49.3%	300 人	168 人	56.0%	人	人

（備考）

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
保育学科	64 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	61 人 （ 95.3%）	3 人 （ 4.7%）
食物栄養学科	36 人 （ 100%）	2 人 （ 5.6%）	32 人 （ 88.8%）	2 人 （ 5.6%）
合計	100 人 （ 100%）	2 人 （ 2.0%）	93 人 （ 93.0%）	5 人 （ 5.0%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	

	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
合計	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業科目は、各学科において教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき体系的に編成している。

シラバスの内容について卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、他授業との関連性について点検を行うなど、授業の工程表として機能するように作成している。

各シラバスには、授業回（通常 15 回）ごとの具体的な授業内容や課題、使用教材、成績評価方法などを記載し、web 履修登録に先立ち学生に公開している。また、履修登録前には、学科別オリエンテーションにてシラバスの活用方法を説明し、学生が主体的に学修計画を組み立てられるよう支援している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学則および履修規程に基づき、すべての授業科目において、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。

また、シラバス記入要領により成績評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、学生が授業の到達目標に対する達成度及び修得した基礎知識・技能等をどの程度達成したかを、多面的・総合的に判断して行い、客観的および厳格性を確保するため、ペーパーテストのみで評価することのないよう、評価の配分割合も明記することを求めている。

また、学生に対しては初回授業において、成績評価の方法や基準について具体的に説明を行うことを義務付けており、より公正な成績評価の実現に向けて、補足的事項（シラバス記入要領 P8～P11）も設けている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学が定める GPA 基準により総合的な学修経験を通して、短期大学士の学位を授与するにふさわしい人格と識見と健全な精神を有していると学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「短期大学士」の学位を授与する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	保育学科	65 単位	有・無	単位
	食物栄養学科	62 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/campus_index/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
短期大学部	保育学科	780,000 円	120,000 円	295,000 円	教育充実費 280,000 円、 家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を実費徴収
	食物栄養学科	780,000 円	120,000 円	300,000 円	教育充実費 285,000 円、 家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を実費徴収

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
遠方からの入学者のためにアパート情報の提供や、アルバイト・ボランティアの情報を提供している。また、日本学生支援機構や社会福祉協議会等の各種奨学金について説明会や個別相談を行う等、学生の手続きが円滑に進むよう支援している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
学生支援・キャリア支援課と学科キャリア担当教員が連携し、学生の進路相談を個別にきめ細かく実施し学生満足度の高い進路決定の支援をしている。就職については、卒業年次前の全学生を対象に、適性検査・就職模擬試験を無料で実施している。また、ガイダンスやセミナーで、業界・職業研究等のキャリア教育を実施するだけでなく、応募書類の書き方説明や面接指導など、就職活動の支援を行っている。福島新卒応援ハローワーク、社会福祉協議会、私立幼稚園・認定こども園連合会、市役所等と連携を取り、求人情報や説明会・面接会の情報を随時提供している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
年１回の定期健康診断だけでなく、全学生から健康調査票を収集し健康状態の把握に務めている。医務室は時期に応じた健康に関する注意換気を定期的に実施、また学科教員との連絡を密にし、体調不良の学生へのアフターフォローを徹底している。定期的に学生健康相談委員会、障がい学生支援委員会を開催し、情報共有や課題について話し合いを行っている。また、臨床心理士・公認心理師資格を持つ学生カウンセラーを配置し、学生からの個別相談を受付け、学生の心の支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_index/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F207310101394
学校名（○○大学 等）	福島学院大学短期大学部
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人福島学院

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		39人（―）人	36人（―）人	39人（―）人
内訳	第Ⅰ区分	24人	20人	
	（うち多子世帯）	（　　）	（　　）	
	第Ⅱ区分	―	―	
	（うち多子世帯）	（　　）	（　　）	
	第Ⅲ区分	―	―	
	（うち多子世帯）	（　　）	（　　）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	―	―	
	区分外（多子世帯）			
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				39人（―）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	—
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）		0人	—
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。		0人	0人
計		0人	—
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間		前半期	0人	後半期	—

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１		0人	0人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）		0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１		0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。